

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 声明/女性ニュース □3面 読者のページ/まんが/俳句
- 4面 年金相談/女性史散策/人「性」いろいろ/法律相談 □5面 憲法のはなし/ホットライン □6面 子どもの熱中症対策/もう一品/母の歴史 □7面 新婦人のページ/主張/北京+25



鳥取・境港市 足立美枝子(76)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

仕事、地球環境、ジェンダー

コロナ後の社会を考える



だれ一人とりのこさない

新型コロナウイルスの拡大が世界でも日本でも社会のあり方を大きく揺さぶっています。コロナ禍や気候変動の危機をどう打開するか、新進気鋭の経済思想家としてメディアでも注目を集めている大阪市立大学大学院准教授の齋藤幸平さんに聞きました。



大阪市立大学大学院准教授

齋藤幸平さんに聞く

さいとうこうへい 1987年生まれ。大阪市立大学大学院経済学研究科准教授。ベルリン・フンボルト大学哲学科博士課程終了。哲学博士。『大洪水の前に一マルクスと惑星の物質代謝』（堀之内出版）でドイツチャイナ賞を日本人初、史上最年少で受賞。

『未来への大分岐』（集英社新書。齋藤幸平編）は「資本主義の終わりか、人間の終焉か」をテーマに3人の世界的な識者と対談し話題に。5万部8版を重ねる



社会的仕事を評価する

「先日もNHKスペシャルの『危機の時代を乗り越える』をテーマにした番組に出演されていた。『仕事』をテーマに、大企業の経営者たちに対して歯に衣着せぬ発言が話題を呼んでいますね。」

あまり話は噛み合わないかったです（笑）。コロナで介護や保育、農業などエッセンシャルワーク（社会で必要不可欠な仕事）の大切さの認識は広がりました。私たちの日常的な生活という意味での経済は、エッセンシャルワーカーたちの頑張りによって2カ月くらいロックダウン（都市封鎖）に近いことをしているも成り立つわけです。スーパーには物があるし、ごみが街中にあふれるとか、医療サービスが

全く受けられなくなることはなかった。その意味で本来の経済とは、実はエッセンシャルワークをしていれば十分可能だったんです。

「その課題解決のためにも、資本主義そのものも乗り越えていく必要を

危機に対応できない資本主義

訴えられています。いまカール・マルクス（2面）に注目されているのは…。

今回の危機が明らかにしたのは、危機の間には弱いもの、貧しいものが真っ先に影響を受ける。日本では非正規雇用の切り捨てがすすんでいくし、世界的には、何十億人の貧困地域の人たちがとんでもない影響を受けている。資本主義では病気が干ばつ、食糧危機の対策や生活の保障ができないところまで来ています。市場原理主義、新自由主義の見直しだけではなく、ひたすらどれだけ儲かるかを至上命令として追求する、資本主義そのものを究極的には乗り越えないといけないと考えています。



感染疑いの発熱患者を受け入れる観察病棟で働く看護師たち（一部画像加工）

いつかは冷蔵庫とか服も買わないといけないですけれど、少なくとも今の消費するの必要はない。「でもそれだと経済が持たない」と大企業の経営者たちが言う経済とは、全然違います。日本は「先進国」と言っても、危機になれば、マスクも、防護服も、消毒液も、社会にとって必要なものが作れない。それなのにこの国の経済は、広告や投資銀行などといった危機の解決に役立たないものによって支配されてきました。

最近話題の電通みたいな会社が何をしているかというところ、高給取りで偉そうにしているけれど、持続化給付金の委託費用の中抜きのように、役に立つどころかむしろ邪魔というところが明らかになった。

私たちの生活は実はエッセンシャルワーカーに支えられていて、この人たちをもっと高く評価する社会に変えられるのか、というのがポストコロナ（コロナ後）の社会の課題だと思います。グローバル化の名のもとに森林を切り開き、単一作物や家畜をどんどん育て、森林の奥に入っていく人間がウイルスと接触し、資本の流れに乗って爆発的に感染が世界中に広がったのが今回のコロナ禍です。ワクチンを使って通りの経済活動を続けていけばいいの。まったく持続可能じゃないですよ。

日本の大学に少しいた時に、貧困や貧困など今の社会問題を考える理論のベースがマルクスだったんです。ドイツの大学院にいた2011年に福島原発事故が起きて、資本主義の生活を維持するために地方に負担を押し付ける矛盾がああいう形であらわれました。マルクスは「自然環境の問題を論じなかった、19世紀の思想家の限界だ」と長らく言われていたのですが、実は晩年のノートの中で労働や生産が自然環境にもたらす影響について多大な関心を払

っていました。マルクスは「資本主義の全巻を完成させていたら『生産力が人間と自然の物質代謝を攪乱して破壊している』と展開したに違いないと考えています。グローバル化の名のもとに森林を切り開き、単一作物や家畜をどんどん育て、森林の奥に入っていく人間がウイルスと接触し、資本の流れに乗って爆発的に感染が世界中に広がったのが今回のコロナ禍です。ワクチンを使って通りの経済活動を続けていけばいいの。まったく持続可能じゃないですよ。

